

欧州連合UNIFYプログラムのワークショップ

大栗博司 おおくり・ひろし

Kavli IPMU主任研究員

Kavli IPMU は、2011年度から欧州連合(EU)のマリー・キュリー・プログラムの国際研究員交換計画“Unification of Fundamental Forces and Application (略称: UNIFY)”のネットワークに参加しています。ヨーロッパでは、ベルリンのフンボルト大学やマックスプランク重力研究所、パリの高等師範学校、第6大学やサクレイ研究所、ポルトガルのポルト大学が中心となっており、ヨーロッパ外では、Kavli IPMU以外に、米国のカリフォルニア工科大学とストーニーブルック大学、カナダのペリメータ研究所が参加しています。ヨーロッパ内外の研究機関の交流を促進するためのもので、ヨーロッパ内の研究機関の研究者が、UNIFYのネットワークに参加しているヨーロッパ外の研究機関を訪問する際には、マリー・キュリー・プログラムから経費が支給される仕組みになっています。UNIFYの研究課題は、超弦理論や場の量子論の基礎的研究を統一理論の理解に結びつけるというものです。大栗は、UNIFYネットワークの執行理事として、Kavli IPMUを代表しています。

過去3年の間にUNIFYのネットワークの中から、様々な共同研究が生まれてきました。また、毎夏、ネットワーク全体の会議を開催しており、第1回の2011年はポルト大学で、第2回はベルリンで全体会議が開かれました。第3回の今年、Kavli IPMUがホスト研究機関となり、8月26日から9月

6日までの2週間にわたって、“Kavli IPMU Workshop on Gauge and String Theory”と題したワークショップが開かれました。

通常の研究会とは異なり、UNIFYネットワーク内での研究交流や共同研究の促進を目的にするものだったので、講演は毎朝2時間のみ。午後は議論と共同研究に充てました。これは、米国のアスペン物理学センターで半世紀にわたって行われている長期滞在型プログラムのスタイルを踏襲したもので、実際にいくつかの共同研究が実を結びました。

2週間のプログラムのうちで、第1週はAdS/CFT対応に現れる可積分構造に、第2週は超対称性をもつゲージ理論の局所化などを使った厳密な計算方

法に、焦点を当てました。

ヨーロッパを中心にして50名ほどの研究者が来日しました。その中には、ワークショップの前後数ヶ月滞在する研究者もあり、Kavli IPMUの研究アクティビティーにも貢献しました。このような海外からの参加者の大部分は、EUのマリー・キュリー・プログラムの資金援助を受けていたので、Kavli IPMUの負担は通常のフォーカス・ウィークの半額程度に収めることができました。

当初の予定より大きな規模のワークショップになりましたが、Kavli IPMU 事務部門の皆さんの並々ならぬ努力のおかげで、成功に終わりました。この場を借りて感謝の意を表します。

